

スーパー耐久シリーズ 2026 第4戦 SUGO スーパー耐久 4時間レース 95号車 SPOON リジカラ CIVIC、今季3回目のポディウムフィニッシュ



7月4日(土)~5日(日)、宮城県のスポーツランド SUGO(3.586km)でENEOSスーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第4戦 SUGO スーパー耐久 4時間レースが開催され、95号車「SPOON リジカラ CIVIC」(小松一臣/小出峻/三井優介)は、予選で ST-2 クラス 2位のポジションを獲得すると、決勝ではオープニングラップですぐに首位を奪取、その後は小出-三井-小松-小出とつなぎ、チェッカーへ残り2分まで首位を守り続けてきましたが、フロントタイヤとブレーキの摩耗が進んだマシンでは猛追してきた13号車 ENDLESS GR YARIS のアタックを阻止しつづける事ができず、僅差の2位でチェッカー受けました。

今大会は、グループ2(5クラス計30台)が4日(土)に、95号車が属するグループ1(5クラス計25台)は5日(日)にそれぞれ予選、決勝レースを行うワンデーレースとして開催されました。

95号車「SPOON リジカラ CIVIC」はここまで優勝2回、4位1回の成績でランキング2位ながら、サクセスウェイトは規則で定める最大量の70kgを搭載しており、テクニカルでアップダウンの多いSUGOでは厳しい戦いが予想されました。グループ1公式予選は朝からの霧雨によってウェットレース宣言が掲示され、8時の予定から10分遅れでスタート。Bドライバーの小出はドライタイヤでスタートし、クラストップタイムをマークしてQ2Aに進出、Aドライバーの小松も難しいコースコンディションの中、Q2Aの2番手タイムを記録してST-2クラス2番手グリッドを獲得。その後コース全体が霧に覆われたため、C/Dドライバーの予選はキャンセルとなりましたが、重いウェイトを積む状況下では最適なスターティングポジションを確保しました。

グループ2の決勝は13時にスタート。路面はドライながら、天候は僅かな霧雨が感じられる程度の曇り、気温22度、路面温度24度で4時間の決勝レースがスタートしました。スタートドライバーの小出はオープニングラップでポールポジションの743号車 Honda R&D Challenge FL5 をオーバーテイクして首位に立つと、その差を徐々に広げていき、50周目に1回目のピットイン。フロントタイヤの交換と給油を済ませて三井に交代。2位に16秒差をつけて首位のままピットアウトしました。三井もコンスタントにラップを刻み、2位とのギャップをコントロールして走行、99周目に2回目のピットインでタイヤ4本交換と給油をすませ、小松に交代して首位を守ったままピットアウト。最後のピットは138周目に給油と小出への交代のみでピットアウト、この時点で約8秒後方まで迫ってきた13号車 ENDLESS GR YARIS の追撃を押さえる果敢な走行を見せましたが、レースも残り2分となったところで、摩耗が進んだフロントタイヤとブレーキでの攻防は限界点に達してしまい2位へと後退、2.3秒差でフィニッシュラインを通過しました。

小出峻コメント

「悔しいの一言ですね。最後は本当厳しく、タイヤもブレーキもギリギリの状況で正に満身創痍だったのですが、チームとしてタイヤ無交換で勝負に出た結果なので仕方の無い部分もあります。耐久性も含めてもう少しマシンを練る必要はあると思いますが、自分としてはもう少し何とか出来なかったのかと感じています」。

小松一臣コメント

「タイヤの状態がよい時は小出さんや三井さんとほぼ同じタイムを刻めるのですが、タレてきたときのコンマ数秒のタイムダウンが今回のような結果に直結してしまうので、そこが修正すべきポイントですね。自分としての乗りやすいクルマ作りがしっかりできていれば、そのリカバリーはできると思いますので次戦までにしっかりとテストして、お二人にはもう少しラクできるようにしていきたいですね」。

三井優介コメント

「自分はこのマシンで SUGO を走るのは 2024 年の開幕戦以来、そのときも決勝ではドライブしなかったので SUGO でのレースコンディション走行は初めてのようです。なので直接比較は難しいですが、クルマは確実に進歩しています。70kg のウェイトはあらゆる面で確かに厳しいですが、右側が重すぎたマシンバランスはウェイトの積載位置で良くなっているし、ハンドリングも悪くないです。上位のライバル勢もウェイトハンディは同じ条件で積むので、次戦では優勝を狙いたいですね」。

原剛チーム監督コメント

「フリー走行から、13 号車の速さは判っていたので、決勝では確実に来るだろうと予想していました。マシンは何のトラブルもなく、想定通りのレース運びでしたが、決勝のラップタイムもコンマ数秒、相手の方が速かったですし、ピットでの作業時間もこちらが負けていたので、その差がそのままレース結果に出たという事です。次戦岡山はコーナリングの速いやリスに有利なコースですが、開催まで3ヶ月ありますので、しっかりとテストを実施して、負けていた部分を取り返す為の策を練っておきます」。

第 5 戦オートポリスは ST-2 クラスがお休みですので、次戦は 10/24-25 の第 6 戦岡山で 3 時間レースとして開催されます。